



「CS」は、コミュニティ・スクールの略称です。

若基小CSだより

第4号 令和5年3月8日

■■「第4回学校運営協議会」を開催しました■■

3月7日（火）に第4回目の学校運営協議会を行いました。今回は、学校評価、令和5年度の学校運営・教育課程などについて協議しました。

【学校評価について】

評価項目	意見
児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童が 84.9%であるのに対し、「子供が将来の夢や目標を持っている」と回答した保護者は67.7%であった。 ここから、児童と保護者の認識の差が大きいことが分かる。 原因として考えられることは、「夢や目標の捉え方の違い」ではないかという意見が出された。 【例えば】 ・子供たちは「6年生では〇〇を頑張りたい」など、身近な目標も目標としてイメージしている。 ・子供たちが持っている将来の夢（サッカー選手、ユーチューバーなど）を親が無理と判断しているのではないか。親は、実現可能な夢を臨んでいるのではないか。 ・子供は取り組んでいる過程での伸びを実感し夢や目標を持っているが、親は取り組んだ結果を見て判断しているのではないか。
望ましい生活習慣の形成	児童アンケートより肯定的な回答は「早寝 72.2%」、「早起き 93%」、「朝ごはん 95.4%」であった。早寝より早起きの方が達成できている子供が多いのは、早起きの成果指標が「7時までに起床」となっているからだと思われる。朝の支度をしたり、朝食を食べたりすることを考えると、子供はもっと早く起きている可能性が高いので、来年度は、「6時半までに起床」という成果指標にしてはどうか。
特別支援教育の充実	個に応じた指導をしていくためには、特別支援学級で行っているスキルは欠かせない。そこで、特別支援学級で取り組んでいることを全職員で共有したり、定期的に研修を行い、教師一人一人の専門性を向上させたりすることが大切である。
働き方改革の推進	1学年1クラスの担任、1学年2クラスの担任、特支援学級の担任、経験が長い教師、経験が短い教師、パソコンが堪能な教師、パソコンが苦手な教師など、教師も一人一人異なる。一人一人の仕事量や仕事の仕方を見守りながら、助言したり、改善したりすることが大切である。また、1人で抱え込まず、学校全体がチームとして取り組んでいくことも働き方改革の1つとなりえる。

【来年度に向けて】

来年度に向けて、うれしいお誘いがありました。それは、「けやき台のふれあい夢広場で果物狩りをしよう」というものです。今年度は1年生が果物狩りに行きましたが、来年度はすべての学年で行ってみたいと思います。果物の木の高さや実る数を考慮して、「1・2年生は柑橘系」、「3・4年生はブルーベリー」、「5・6年生はプラム」の収穫をする予定です。収穫時期は、柑橘系は11月、ブルーベリーは6月、プラムは7月頃だそうです。今から楽しみです。

地域住民の皆様、学校運営協議会委員の皆様には、学習支援ボランティアや登下校の見守りなど、1年間ご支援いただき感謝申し上げます。皆様に温かく見守っていただいているおかげで、若基小学校の子供たちは、毎日穏やかに笑顔で学校生活を送ることができています。本当にありがとうございました。学校運営協議会委員の皆様からは「学校の応援団として何でもしますよ」とうれしいお言葉をいただきました。来年度も、子供たちが安心して過ごせるような地域と共にある学校を目指して、教育活動を実践していきたいと思ひます。

